

第4学年2組 社会科学学習指導と評価の案

日 時：平成17年10月5日（水）
 授業者：瓜田 恵美
 場 所：北舎3階4年2組教室

- 1. 単元名** 「きょうどにつたわるねがい」～高山に初めて電とうをともした住民平～
- 2. 本時の目標** 住民平が、私財や信用をすべて失ったにもかかわらず、電とうをともすことをあきらめなかったのは、火事をなくしたいことや、町を発展させたいためだけでなく、「人々のために」という飛驒人を愛する強い思いがあったからであるということを、追究資料や顕彰会長の江黒さんの話から具体的に考えることができる。
- 3. 本時の評価規準**
<思考・判断> 住民平がすべてを失っても電とうをともすことをあきらめなかった理由を、本時提示資料からだけでなく、前時までの学習内容や資料から具体的に考えることができる。
- 4. 子どもづかみの具体**
 学ぶ意欲：補助資料から疑問をもち、課題につなげようとするようになるようになってきた。自分の体験と住民平の行動の違いから課題を設定し、主体的、継続的に課題を追究していく意欲を育てたい。（関心・意欲）
 学ぶ力：課題から予想を立て、自分の生活経験や既習内容を合わせて自分の考えもつことができるようになってきた。仲間の考えと自分の考えの共通しているところと違うところを交流の中から試行錯誤しながら捉え、住民平の思いに共感してさらに自分の考えを深めさせたい。（思考・判断）
 学び得た力：既習内容や追究資料から住民平が電とうをともす努力をし続けた思いがわかる。（知識・理解）（技能・表現）
- 5. 本時の展開** (8/12時)

	学 習 活 動	研究内容の具現のための手立て												
見 通 し を 持 つ	①高山の人が電とう会社設立に協力しなかった理由と財産をなくした住民平を振り返り、その後住民平が電とうをともす努力を続けたかどうかの予想を交流する。 S. 誰も協力してくれないから、もうあきらめたと思う。 S. お金もなくなり、続けたくても続けられないのではないかな。 ②資料から本時の課題を設定する。 S. お金も協力者もないのに、もう一度電とう会社をつくらうとしたのはどうしてだろう。	<子どもにとって切実感のある学習課題設定の工夫> ・課題につながる意識のずれを起こさせる 前時までの既習内容や補助資料からすべてをなくしてもなお電とうをともすことあきらめない住民平への疑問や驚きを引き出す。 ・子どもが自分の言葉で課題を作ることができるように補助資料や発問を精選する。（研究内容Ⅲ一②）												
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 民平さんは、すべてをなくしてしまったのに電とう会社をつくることをあきらめなかったのはどうしてだろう。 </div> ③予想を交流する。 S. 電とうは高山には絶対にいると考えていたからだと思います。 S. 高山の人が幸せになってほしかったからだ。 S. 一度決めたことだからやりきろうと思ったのかな。 ④資料から課題追究をする。	<学習課題に対する子どもの見方・考え方を引き出す学習活動の工夫> ・考えの足場となる複数資料を絵や写真、表、文章など形式の違うものを使うことによって、誰もが意欲的に学べるようにする。 ・資料別、個別、ペアといった学習形態をとることによって、自分の考えやすいものから資料を選んで考えたり、自分の考えを確認したりする。（研究内容Ⅱ一③）												
追 究 す る	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">資料1 火事の状態</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">資料2 当時の東京と高山の発展の違い</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">資料3 民平の裸の写真と書かれている言葉</div> </div> ⑤調べたことを交流する ○当時の火事の資料より（資料1） S. 昔は火事が多かったんだなあ。 S. 電気を使うようになれば、火事は絶対に減ると思った。 S. 火事が減れば高山の人は安心して豊かにくらしを考えたのだろう。 ○東京と高山の写真資料より（資料2） S. 高山にはまだ電気がなくて不便だから。 S. 高山を東京のように発展させたいという思いが強かったからかな。 ○住民平の写真と言葉（資料3） S. 絶対に成功させたいという思いが写真に表れている。 S. やる気のある言葉だなあ。 S. 高山を好きだから、どうしても高山の人が幸せになることをやりたかったんだと思う。 ◎高山の人は協力してくれなかったよね。 S. みんなは電灯はいらないと思っているかもしれないけれど、ここであきらめたら高山の人はずっと豊かにくらしをしないし、それを知っているのは人は自分しかいないから、よけいにやる気が出てきたんだと思います。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>学びの状況</th> <th>よさが出るてだて</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aの児童</td> <td>複数の資料から考えている</td> <td>それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す</td> </tr> <tr> <td>Bの児童</td> <td>一つの資料から考えている</td> <td>資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す</td> </tr> <tr> <td>Cの児童</td> <td>資料の選択に迷う</td> <td>一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。「東京と高山はどう違うかな」など問い返す。</td> </tr> </tbody> </table>		学びの状況	よさが出るてだて	Aの児童	複数の資料から考えている	それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す	Bの児童	一つの資料から考えている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す	Cの児童	資料の選択に迷う	一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。「東京と高山はどう違うかな」など問い返す。
		学びの状況	よさが出るてだて											
Aの児童	複数の資料から考えている	それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す												
Bの児童	一つの資料から考えている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す												
Cの児童	資料の選択に迷う	一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。「東京と高山はどう違うかな」など問い返す。												
深 め る	⑥江黒さんの話から、自分や仲間の考えを確かなものにする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 住民平さんは、自分のためだけでなく、自分が育った高山が豊かで幸せになることをずっと願っていたから、電とうをともすことをあきらめなかった。高山の人々を好きだったからできたことだ。 </div>	<新たな見方・考え方に気づく学習活動の工夫> ・相手にわかる話し方を話形を示し、考えやつながりがわかるようにする。 ・考えを交流し、深めるための時間の保障をする。 ・一斉での学び合いの場を設定し、自分の考えを意見交流の場で広げ、練り合い、さらに深めていく。（研究内容Ⅲ一③）												
	⑦本時のまとめと自己評価チェック <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 住民平さんが電とうをともすことをあきらめなかったのは、飛驒の人は電気や電とうによって必ず幸せになれると思い、飛驒の発展のためには絶対に必要だと考えたからだと思います。 </div>	試行錯誤させる教師の問いかけ ※子どもから出なかった場合 「民平さんにはもう何もないし、前の時間でやったとおり誰も協力してくれなかったんだよ。それでも電灯はともせそう？」 ※子どもから出た場合 高山の人のことにふれた子がいたら、民平のことをどう思っていたのか振り返らせ、反対の中で電灯をともそうとした民平の、飛驒の人に対する強い思いをさらに深く考えさせる。												
ま と め る		<子どもの学びの状況に応じた指導・援助の工夫> ・多様な意見を引き出すために、教師が意図的に指名をする。（研究内容Ⅳ一①） <追究したよさが実感できるまとめの工夫> ・資料から深めた意見をキーワードで板書し、それを使ってまとめと感想を書くことによって認め、自信をもたせる。 ・課題に対してどのような取り組みができたか、自己評価チェックを行う。（研究内容Ⅳ一②）												